

日本感情心理学会 2014 年度第 1 回常任理事会・理事会議事録

日時： 2014 年 5 月 30 日(金) 17:50~19:00

会場： 宇都宮大学学生会館 多目的ホール

出席者： 中村真、大平英樹、阿部恒之(常)、岩永誠(常)、内山伊知郎(常)、佐藤健二(常)、澤田匡人(常)、
石川隆行、今田純雄、小川時洋、河野和明、戸梶亜紀彦、永房典之、藤原裕弥

欠席者： 有光興記(常)*、湯川進太郎(常)*、北村英哉*、余語真夫 (*議長に委任 (常)常任理事)

監事： 谷口高士(欠席)、山岡淳(出席)

- ・議事に先立ち、故・松山義則初代理事長に黙祷をささげた。
- ・出席者数は、常任理事、および理事それぞれの総数の 3 分の 2 を超えており、各会が成立していることが確認された。
- ・議事録の署名人は理事長と副理事長ということで承認された。

報告事項

1. メール審議事項等について

(1) 2013 年度大会(第 21 回大会(東北大学))決算について

慣例に沿って、阿部常任理事に総会での報告が依頼された。

(2) 各種賞について

1) 大会発表賞選考規程の制定

湯川常任理事より発議されて承認済みであることを確認した。

2) 学術貢献賞授賞規程の制定

承認済みであることを確認した。

(3) 事務局幹事の選任について

有光事務局長がサバティカルで不在のため、幹事として澤田常任理事の就任が提案され、了承済みであることを確認した。

(4) 第 21 回大会発表賞について

以下の通り承認済みであり、5 月 31 日の懇親会の席で表彰式を行う予定であることが報告された。

◆優秀研究賞

発表者：大隅尚弘・梅田聡・大平英樹 「身体の覚醒の低下はサイコパシーとリスク選択をどう結びつけるか—媒介分析による検討」

◆独創研究賞

発表者：Wiwattanapantuwong, Juthatip・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差」

◆グッド・プレゼンテーション賞(3 件)

発表者：中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情」

発表者：木村昌紀・毛新華 「日本人と中国人の親密なコミュニケーションは何が違うのか?—未知関係と友人関係を対象にした検討」

発表者：藤村友美・岡ノ谷一夫 「情動喚起画像の文脈的複雑性の評価—驚愕反射を用いて」

(5) 「感情心理学研究」21 巻優秀論文賞の選考について

著者：酒井美枝・増田暁彦・木下奈緒子・武藤 崇 区分：原著 掲載誌：21 巻 2 号

表題：社交不安傾向者の回避行動に対する Creative Hopelessness の効果 —変容のアジェンダへの主観的評価に焦点をあてて—

2. 編集委員会報告

岩永編集委員長より、機関誌の編集状況について報告があった。遅れている3号は、近日中に発行予定である旨報告された。

3. セミナー報告

大平副理事長より、2013年度のセミナーが2014年3月8日に名古屋大学で開催されたことが報告された。「ルール・道徳・感情」というテーマで、3名を講師として実施された。参加者は約55名であり、その半数以上が非学会員であったことから、感情心理学会のPRとして有効であったと考えられる旨報告された。

4. WG 関係等報告

(1) 剽窃 WG(資料6)

岩永編集委員長より、心理学関係の学会にアンケートを実施し、WGにおいて検討した結果を踏まえて、本学会に倫理委員会を設ける必要性が説明された。

(2) 広報 WG(資料9)

阿部常任理事から報告があった。広報WGを設立し、小川理事、今田理事とともに昨年の12月15日に理事長を交えて会合を開いた。当初は収入アップを目的として活動をはじめたが、学会のプレゼンスを高めることを本務とした。具体的には、ロゴ作成、ニュースレター作成などの企画について話し合われた。

(3) ハンドブック出版関係

内山常任理事から報告があった。感情心理学ハンドブックに関して、澤田常任理事の協力のもと作業を進め、北大路出版に依頼し内諾を得ている。この夏休み(9月頃)までに原稿依頼の作業をしたい。本は日本感情心理学会が監修とし、現在の理事会が中心となることが想定されている。章を構成するための「部」を設定し、各領域をマネジメントしていただく先生から依頼していくことで作業を想定している。約6領域を想定し、候補を挙げていく予定。正副理事長とも相談しつつ、ある程度決めたところで理事会に報告する方向で検討している。

(4) 企画関係

理事長より、ハンドブックと並行して出版物を計画していくことが湯川常任理事から提案されていることが報告された。

5. その他

とくになし。

審議事項

1. 入会者承認について(常任理事会)(資料1)

理事長より、仮入会者の32名、ならびに5月15日締切りの入会希望者2名、退会希望者4名について説明があり、審議の結果、入退会が承認された。

入会の承認について、以前は、常任理事会の場でなければ学生証等の証明書が回覧できなかった事情があったが、現在はメールでファイルを確認することができることから、理事長から、メール審議で仮入会、大会時の常任理事会で本入会という手続きを変更し、メール審議で正式な入会を決定することが提案され、審議の結果承認された。

阿部常任理事より、資料1の欠番(140143)について質問があり、理事長より国際文献社の入力ミスという説明があった。また、阿部常任理事より、2014年1~3月の新入会希望者について質問があった。理事長から改めて入会希望者のリストを作成し、本入会を審議することが提案され、承認された。

戸梶理事より、2013年12月に入会し2014年5月に退会希望のあった会員について質問があった。理事長から、事務局に問い合わせて事情を確認することになった。

理事長より、入会者は昨年度よりも増えているが会員数はほとんど変わっていない旨、説明があった。主要な理由として、会費滞納者が自動退会になったことが指摘された。

2. 2013年度決算について

(1) 決算案について(資料2-1,2)

理事長から、収入の部と支出の部、それぞれについて説明があった。収入については、正会員の納入率は良いものの、正会員(院生)の納入状況があまり良くないことが説明された。また、賛助会員が1団体減ったこと、寄付金として神戸大学の大会から寄付が多かったことなどが報告された。

理事長から、支出の部として、ホームページ維持費の支出が減ったことについては、第21回年次学術大会では大会HP関係の経費が東北大学にまとめて請求されたために、学会負担分が支出されなかった旨、説明があった。寄付金については諸学会連合に予定されていたが、請求がなかったので0円となった。

上記の説明の後、決算案は原案通り承認された。

(2) 監査報告(資料2-3,4)

山岡監事より、5月10日に行われた会計監査の結果が報告され、正確かつ妥当であることが認められた。

3. 2014年度予算について(資料3-1,2)

理事長より、前年度よりも積極的な予算を組んだこと、すなわち、機関誌を電子版に一本化することによって経済的に余裕が出てくる分を先取りして予算化したことが説明された。

(1) セミナー

セミナーを学会として実質的に実施するために10万円を計上した。

(2) 研究支援(若手)・表彰

若手支援企画の支援に加えて、さまざまな表彰に伴う懇親会費などを学会として負担するために、新たに10万円を予算化した。

(3) 運営関係

会議費・交通費を増額した。

(4) HP関係

発表抄録を受け付けるシステム（1万円ほど）も見込んで計上した。

阿部常任理事より、電子化に関する予算について質問があった。理事長より、2015年度から、印刷費・配送費の計上については計上しないため70万弱の節約になる旨説明された。また、阿部常任理事より大会HPにかかる経費について質問があり、理事長より、今年度が初年度になる場合、来年度は4万3千円よりは少なくなることが見込まれている旨、説明があった。

以上の質疑応答の後、予算案は原案通り、承認された。

4. 会費未納者について(資料4)

理事長から、2年以上の滞納者リストが呈示され、未納者に対して納入の働きかけが依頼された。赤印（4年連続未納者）は自動退会となることが提案、了承された。理事長から、会員数に応じた維持経費がかかることを踏まえ、3年連続未納の会員も、年度末までに支払いがなければ自動退会にすることが提案され、承認された。

今田理事より、滞納者の個別の情報（請求書が戻ってきてしまっている会員がいるのか）があるというのではないかと質問があり、理事長から、事務局に確認して特別な傾向があることが判明した場合には報告する旨、説明があった。

5. 機関誌の電子化について(資料5)

理事長から、これまでに意見や質問は寄せられていないことが報告され、理事会で反対がなければ予定通り総会に提案することが説明され、承認された。

6. 企画チームの設置について

理事長から、機関誌を電子版に一本化することで節約できる経費の効果的な使用のために、新たな雑誌の出版を含む学会活性化のための企画について検討するチームを、理事長と現企画担当の湯川常任理事を中心として設置することが提案され、承認された。人選については理事長と湯川常任理事を中心に検討することとした。

7. 倫理委員会(仮)の設置について(資料6)

理事長から、問題が生じた場合に迅速に対応する必要があることから、常設の倫理委員会を設置することが提案され、承認された。委員会の構成員は、副理事長と編集委員長、ならびに常任理事から1名の3名とすることとし、必要に応じて、2名程度の問題に詳しい臨時委員を追加して、問題に対応することが確認された。具体的な人選は、理事長と副理事長、編集委員長に一任された。

8. 機関誌発行のプロセス管理について(資料7)

岩永編集委員長から、資料に基づいて、機関誌第 21 巻 2, 3 号の発行遅延理由について説明があった。今後の対策として、特集やセミナー論文等の掲載号を状況に応じてある程度柔軟に変更すること、印刷準備の整った一般論文から順次発行することなどにより、定期的な発行に向けて調整することが提案され、承認された。

9. 松山義則先生の追悼企画について

理事長から、機関誌に追悼文を掲載することが提案され、承認された。

10. 第 9 回セミナーについて

理事長から、大平副理事長と北村理事を中心に企画を進めることが提案され、承認された。

11. 若手支援について

理事長から、第 22 回年次学術大会前日の若手支援企画のような企画を来年度以降も継続することが提案され、承認された。

12. 優秀論文賞授賞規程の改正について(資料 8)

岩永編集委員長から、すでに規程が制定されているにもかかわらず仮規程となっている部分を修正する提案があり、原案通り承認された。

13. 年次学術大会 HP 支援について

理事長から、年次学術大会時に発表抄録を集めるためのシステムの使用料を学会が負担することが提案され、承認された。

14. その他

とくになし。

以上

2014 年 6 月 11 日

理事長 中村真
副理事長 大平英樹